

【未成年のコロナワクチン接種について】

ファイザー社のワクチンの接種対象は12歳以上となっています。

未成年者への接種について、厚生労働省のホームページにQ & Aが掲載されています。

未成年者であっても、16歳以上の方については、親の同意書は必要ありません。

12～15歳の接種には、原則、保護者の同伴が必要です。予診票に保護者の署名

が必要で、署名がなければワクチンの接種は受けられません。

「VPDを知って、子どもを守ろうの会」はワクチン接種で子どもたちをVPDから守るための啓発活動をしています。12歳以上の子どもの新型コロナワクチン接種についての考え方を示しますので、参考になさってください。

2021年7月6日、子供の新型コロナワクチンの考え方を公表しました。

子供たちの多くは家族から感染することから、「**ワクチン未接種や接種年齢に達しない子供たちを守るために、まず、周囲の大人がワクチンを接種しましょう**」

10代の感染者の多くは軽症か無症状。ただし、感染すると症状の有無にかかわらず少なくとも10日間の隔離が必要です。感受性者（感染する可能性のある人）対策としてのワクチン接種が必須である理由です。

受験生や変更できない予定がある人にはワクチン接種を特におすすめします。

重症化リスクのある基礎疾患がある子どもの接種は、主治医と相談してください。

新型コロナワクチン（mRNA ワクチン）については、「非常に高い有効性が示され、実際に接種率が高い国では、新型コロナウイルス感染者、入院数、死亡者数が減少している」「変異株に対しても拡大が懸念されているデルタ株を含めて有効性が示されている」

子供たちの新型コロナウイルス感染症の7割が家庭内、1割強が学校や幼稚園・保育所等で感染することから、周囲の大人がワクチン接種で家庭内や保育、教育施設にウイルスを持ち込まないことが重要です。**子供たちのワクチン接種の優先順位は高くなく、12歳未満は接種対象ではないことから、まず、保護者を含めた周りの大人がワクチン接種を済ませるようにしましょう。**

・ワクチン接種後の副反応のうち、接種した部分の痛みや腫れなどの局所反応はほとんどの人におこります。接種後の頭痛、全身倦怠感、発熱（37.5度以上）などの全身反応は、2回目接種後の多くの人にみられます。局所反応、全身反応とも、接種翌日をピークに減少し、1週間以内にほぼ改善します。

・これまでに採血や予防接種で、めまいや失神（血管迷走神経反射）をおこしたことがある人は遠慮なく接種医に伝えてください。安心して受けられるような工夫ができます。